

地域医療発展に貢献

瑞宝双光章

阿知須共立病院長 三好正規さん

1968年から勤務医、80年からは阿知須共立病院長として地域医療・福祉の発展に貢献してきた。「身に余る光栄なこと。今まで支えてくれた地域の皆さん、家族、病院職員ののおかげ」と感謝を口にしている。



岡山大学医学部第3内科勤務医として臨床と研究に励んだ後、小中高校生を過ごした故郷で40年以上にわたり地域医療に携わる。95年には県病院協会理事に就任し、病院経営改善の支援に取り組むなど業界の発展にも尽力した。

何よりも「医の心」を大切にし、地域への貢献を考えてきた。「愛する地域に少しでも役に立てればと努力してきた」と振り返る。約50年間にわたる医師生活にも、「超高齢化社会のニーズに応じた地域医療・福祉の発展、地域社会の活性化に体力・気力が許す限り努力したい」とさらなる意欲を燃やす。

(山口市、72歳)



体力・気力の限り 医療・福祉に努力

◇瑞宝双光章

(保健衛生功労)

三好 正規さん(72)

(阿知須共立病院長)

1979年に帰郷し翌年から阿知須共立病院長を務めている。95年から県病院協会理事として病

院経営の改善や支援に従事。99年から2013年まで同常任理事として円滑な事業を図るために手腕を振るった。この間、吉南医師会の理事や会長を歴任し医師会活動に尽力。医師会が運営する准看護師学校の学院長として、看護師養成にも積極的に取り組んできた。「育ててもらった地域のために、体力・気力の続く限り、これからも医療・福祉に努力したい」と話した。